

TV 会議システムや WEB を利用した FD 活動

藤原正敏¹, 坪川武弘²

(仁愛女子短期大学¹, 福井工業高等専門学校²)

0. はじめに

福井県戦略的の大学間連携事業「個性的な地域創生のための学習コミュニティを基礎とした仮想的総合大学環境の創造」(略称 F-LECCS) に掲げる FD 活動では、遠隔会議システム (TV 会議システム) を利用した研究会や打ち合わせ、WEB を用いた意見交換や資料の蓄積・提供を活動推進の重要な方法として位置づけてきた。連携高等教育機関が距離的に離れていることはこれらの ICT 技術を用いた手法が必要となる客観的な要因である。実際に運用してみるとこのような技術基盤に乗った FD 活動が小規模の広域連携にとっては活動を継続し発展させていく上で重要なインフラであると思われる。今回は、TV 会議システムの利用と WEB の利用について報告する。

1. TV 会議システム

福井県情報スーパーハイウェイ (略称 FISH) を利用して連携 6 校を高速ネットワークで結び高品質な TV 会議システムを構築している。2009 年 4 月より毎月の研究会や打ち合わせで利用が可能となった。連携校からは 1 対 1 接続であるが、福井県立大学が多地点接続のためのノード校となり、

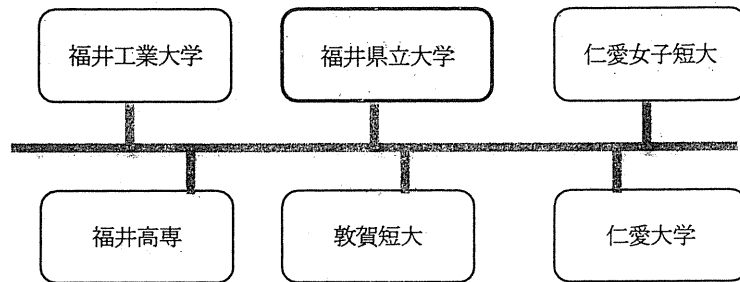


図 1. FISH を利用した TV 会議システムの構成

ノード校を介して同時に 6 校で送受信できる。このような環境を以下の表 1 の研究会の全てで利用している。研究会は持ち回りの形で連携校各校で開催している。各研究会は TV 会議システムで発表者と資料となる PC 画面とを映像配信し、討議については発言者の映像が見れるように配信し参加校全体で討論を行っている。

このような方法での FD 活動としての研究会は、所属する学校または適当な接続学校で参加ができるため参加者の裾野を広げることに役立っている。配信のためのサポートスタッフを現在おいていることによりどの連携校からもうまく配信することができる。研究会開催のための物理的な準備が比較的に楽なおかげで毎月 1 回程度の開催になっている。では、研究・研修内容の深まりは TV 会議システムの利用によりどう変化したのか。薄っぺらなものにはなっていないのか検討する必要がある。発表や質問についての理解と言う点では、対面の場合と比較してあまり遜色はないようであるが、討議になると表現の微妙な部分が伝わらない場面も散見される。意思疎通をはかるための討議の時間を多くとる工夫が必要である。また、双方向で主体的に参加できる規模は、テーマにもよるが現状の 6 校数十名程度と思われる。

機器を利用するためのノウハウについてはしだいに各校のスタッフに蓄積されつつある。一方で運営・進行については、研究会らしい方法をいろいろ試す段階である。

2. WEB を利用した FD 活動

F-LECCS で提供している WEB サービスとして、SNS (ソーシャル・ネットワーク・サービス)、

表 1. 2009 年度の TV 会議を利用した研究会

2009 年度 開催日	開催場所	テーマ	F レックス 研究会
4 月 22 日	福井県立大学	MOODLE 講習会	第 3 回
6 月 22 日	福井工大	VOD 研究会	第 4 回
6 月 24 日	福井県立大学	大学におけるキャリア教育の位置付けとキャリアセンターの役割	
7 月 30 日	仁愛大学	学生理解と学生支援について	第 5 回
8 月 24 日	福井県立大学	地域が学ぶ、地域と学ぶ、地域に学ぶ	第 6 回
9 月 25 日	敦賀短期大学	e ポートフォリオの利用法	第 7 回
10 月 30 日	仁愛女子短大	日本の大学連携の現状と F レックスの今後	第 8 回
11 月 30 日	福井工大	学生による授業アンケートを考える	第 9 回

LMS (ラーニング・マネージメント・システム)、e-PortFolio がある。

SNS 上では、「FD チーム」の専用のフォーラムページが設けられていて日常的に FD 活動の情報交換を行っている。このフォーラムにおいては、FD をテーマとした F-LECCS 研究会のための準備、各校独自に実施している講演会や FD 研修会の案内、他地域において開催されている研究会の案内が中心となっている。フォーラムの中では、「学士力をどうとらえるか」などがかなり本音で語り合われている。このように SNS 上では対面での研究会 (TV 会議での場合も含む) とは違って突発的にテーマが設定され、議論も意外な展開をしていく。ネット上での議論は、対面での研究会を補う場合に必要となると考えてきたが、最近の展開を見ると日常的で自発的な FD 活動の一つの重要な形態と考えられる。

LMS は日常的な学生の学習支援に力を発揮するが、FD 活動へも活用が可能な環境を提供する。特に、FD 資料の蓄積・保管・配布に便利である。F-LECCS のシンポジウムや研究会はその大半をビデオ取りして編集し残している。これらの講演資料をビデオ・オンデマンドサービスとして提供を始めている。LMS は参加校と限られた人にしか公開していないため、FD 活動のために利用する場合での視聴というサービスに限定している。それ以外にも研究会での発表資料になどはほぼすべて LMS 上に公開している。今後は、FD 活動の様々な資料を蓄積し提供することを追求したい。

3. ICT 技術を利用した FD 活動の今後

連携による相互研修型 FD を進めるなかで教員の意識は変化してきている。直面する学生の実態から出発して教育改善をしたいという空気も生じてきている。しかし個々の教員の持っている高等教育や現在の学生に関しての情報や知識には限界がある。学生論・学習論などの紹介とともに、様々な教育論議を日常的に展開するための対面・非対面の場をきめ細かく設ける必要性が出てきている。TV 会議システムや SNS, LMS の活用は、小規模・広域での FD 活動の連携には欠かせないものとなっている。現在はその可能性を様々な追求している段階である。また、連携を支えるスタッフの存在はどうしても必要である。同時に ICT 利用の FD 活動を信頼できるものとするために、顔の見える人的ネットワークの構築はその土台であり、その広がりこそ活動の指針となると思われる。